

JKSK学生 (2010-2016)
2011年11月進捗報告

アルピタ・パリット

バングラディッシュ

UG 2、政治、哲学、および経済学専攻

アルピタは実り多き1年生活をAUWで過ごしました。「ソーシャルアイデンティティ」「表現と解釈」「公衆衛生」および「文化多様性とそれらの課題」などのクラスを受講すると同時にAUWコミュニティ・ティーチャーの会長としてチッタゴンのスラム街に暮らす子ども達の教育に専念しました。会長としてティーチャーズ・クラブの予算を組み、カリキュラムを作り、講師陣のスケジュールを作成し毎週の授業も受け持ちました。この経験を通じて学んだことは、スラム街の子どもが通学を断念した際、彼らが勉学を続けるよう勧めてくれる人間がいかに少ないかということでした。よって、彼女はさらなる支援や励ましを通じてこの子どもたちが学校に通い続けられるよう活動し続けることを自分の使命と認識しています。

夏休み中、アルピタは11人のクラスメートと共にチッタゴンのラウザン地区に暮らす母子の健康に関する調査プロジェクトに取り組みました。母親がどのように子どもたちに食事を与え、彼女たちがどのような迷信を持ちどのように子どもの栄養管理を行っているかなどを調査しました。これらのデータはより細やかな対応につながることを願って地域の病院に提出されました。口を固く閉じた母親が多かったため、同調査は決して容易ではありませんでしたが非常に貴重な体験だったと語っています。冬休みには調査第2弾を早くも予定しており、今回は高校3年生の女子高生12人に健康リテラシーについてインタビューを行います。

この秋、アルピタはAUWコミュニティ・ティーチャーズの会長を続けながら「国際正義」「アジアのジェンダー、平和および紛争」「ミクロ経済学原理」や「微積分学II」を受講します。

ガンガ・シルバ

スリランカ・カルタラ

UG3、政治、哲学および経済学専攻

ガンガは変化を信じてやまない。自分自身や社会を変えることは誰にでもできることだが本当の課題はそのポジティブな変化を維持することだ。ガンガは自分を取り巻くあらゆる変化、とりわけスリランカの民族紛争の結果や自分自身の変化、そして最近ではアジア女子大学(AUW)で過ごしてきた3年半を通じてその現実を目の当たりにしてきたからこそこれがどれだけ困難なことなのかを身を持って理解しているのです。

AUWでは政治、哲学および経済学過程を通じて様々なことを学んできました。例えば、実際の世界情勢を理解するために欠かせない理論の応用や分析能力。彼女は発展を目的とした民主主義に関する理論の分析やアジアの様々な政治システムに適用される理論の欠点の精査に特に興味を持っています。これらの分析を積むにつれて母国が発展国になるためにどのような変化が必要なのかが見えてきました。また、あらゆる課題を多面的な切り口から検証する能力も身に着けましたがこれは12か国にも及ぶ国際色豊かなクラスメートがいるからこそその成果です。

AUWに通い始めてガンガは社会的、身体的、精神的、そして情緒的にも変わりました。異なる国、文化、宗教や言語を持つ人に対して尊敬の意を抱くようになったことに加え、彼女は優れたリーダーシップを身に付けました。この3年半、ガンガはモデルUN、討論クラブ、およびAUW国連青年・学生連合バンングラディッシュ支部に所属しており、サイエンスクラブの副部長を務め、センター・オブ・リーダーシップ・アシスタンス・アンド・プロモーションのスリランカ代表も務めてきました。これらの課外活動に加えてチッタゴンで活動する人道支援NGOのプロジェクトに取り組んでいるAUW職員の研究助手も務めています。また、夏にはUNDP、EU、およびUNICEFが主に支援するスリランカのNGO、Women in Needのインターンシップを終えました。インターン期間中、彼女はドメスティックバイオレンスやスリランカの女性に対する暴力に関する研究の助手を務めました。また、「ケーススタディ900」という新しいプロジェクトのデータベースを設計しました。同プロジェクトはスリランカで初めて、同国の女性がさらされている暴力を統計的に示し分析する資料を集めたものです。

今後、ガンガは国際関係学・開発学の博士号取得を目標としています。いつかは国連の一員として“特に女性や子どものエンパワーメント”に努めたいと願っています。

サビーナ・タパ・マガール
ネパール

UG2、哲学、政治および政治学専攻

サビーナ・マガールは現在、アジア女子大学(AUW)学部課程の二年生です。初年度は「微分積分基礎」「パワー、アイデンティティおよびレジスタンス」そして「世界文学」のコースを受講しました。また、スポーツクラブの副部長として AUW 学生向けの数々のスポーツイベントを企画しました。さらに、美術クラブの秘書、サイエンスクラブおよびダンスクラブにも所属し、AUW 国連青年・学生連合バングラディッシュ支部(UNYSAB)のメンバーとしても「非暴力の日」や「女性権利の日」などのイベント企画にも積極的に関わってきました。UNYSAB のイベントでは催しの目的を含め参加者の意識向上に向けたプレゼンテーションを行いました。これらすべての活動をどのようにマネージメントしているか聞かれるとサビーナは「アクセス・アカデミーで時間管理について多く学びました」と応えます。

サビーナの様々な活動のなかで最も注目すべき活動は夏休み中ネパールにて取り組んだプロジェクトです。彼女は AUW にて開始したこの多国籍リサーチプロジェクトのネパール代表として女子中学生・高校生のうち、科学に興味を持っている学生の割合を調べました。サビーナは 13 歳から 17 歳までの女学生 50 人をインタビューしました。インタビューでは彼女たちが通うそれぞれの学校が提供する科学系授業について質問し、授業に対する興味の度合いや大学レベルで科学の勉強を継続する意思の有無について調査しました。今年度はスリランカ、ミャンマー、タイ、インド、およびネパールで集めたデータをクラスメートと検証し数年後にどれだけの女性科学者がそれぞれの国から輩出されるかを予測します。

夏休み中、サビーナはネパールの地方銀行でインターンシップも経験しました。銀行では現金管理課で働き、ローンやクレジットについて学びました。彼女は今後大学院で MBA を取得するか経済学を学ぶ予定をしており、この経験はその時に大いに役立つと思っています。

この秋、サビーナは「ミクロ経済学の原理」「微分積分 I」「国際正義」「アジアのジェンダー、平和および紛争」および「北京語 I」を受講し、哲学、政治および経済学を専攻とします。

ミンズー・ハ

中国

UG 2、専攻未定

ミンズーは環境科学を学びたいという揺るぎない気持ちを胸にアジア女子大学(AUW)二年目に突入しました。環境科学への興味は夏休みに完成した「雲南省ダムがおよぼす環境的・社会的影響」プロジェクトに根差しています。彼女は雲南省ダムの影響を検証するために4つの村を訪れ、村民のインタビューを通じて水や川の汚染に関する彼らの考え方を調査しました。この調査を通じて水汚染が下流よりも上流に集中していることを知りました。これは中国とベトナムの国境に程近いこともあって法が厳しく施工されている下流に対し、上流の法施行は欠如しており違法工場が点在していることに起因していると指摘します。ミンズーはこれから数か月かけて収集した全データを分析する予定で、それを通じて環境科学についてより深く学び、いずれは中国の水管理問題に関わる仕事をしていくことを目標に掲げています。

環境科学への興味に加え、ミンズーは2010年秋に受講した口述歴史にも非常に興味があります。このクラスでは中国の少数民族モンゴル族の一員としての自らの歴史体験を記録し始めました。夏休み中には祖母や母からも色々な話を聞き、今後はモンゴル族の女性3代に渡る歴史の記録を完成したいと考えています。

また、ミンズーは1年生として様々なクラブにも参加してきました。勉学にフルに取り組みながら、AUWのWomen Across Bordersクラブの一員としてチッタゴンの孤児院で子どもたちに英語を教え、ソーシャル・サイエンス・クラブでは工場を訪れて作業員の生活についてインタビューを行い、サイエンスクラブでは毎週行われる会合で科学関連記事のプレゼンテーションを行い、ディスカッションのリーダー役を務めてきました。これらの活動について彼女は「知識の渴望」がすべての原動力と無限なエネルギーの源であると答えます。

この秋、ミンズーは「国際正義」「発展に向けた情報コミュニケーション技術」「生物学I」そして「化学I」を受講します。また、AUWの新しい語学コース「北京語I」の学生アシスタントも務めます。アシスタントを引き受けた理由について、ミンズーは1年生の時に引き受けた「中国歴史」のアシスタント役が非常に楽しかったことを挙げ、これから北京語を教えるのを心待ちにしています。

ハーン・ゴ・ホング

ベトナム

UG 2、哲学、政治、および経済学専攻

ハーンはアジア女子大学(AUW)二年生になりました。UG 学生として過ごした1年生の時は「中国の歴史 I/II」、「微分積分基礎 I/II」、「女性問題」、「グラスルート&コミュニティ・オーガニゼーション」および「パワー、アイデンティティ、およびレジスタンス I/II」のクラスを受講しました。これらのコースのうち「女性問題」と「グラスルート&コミュニティ・オーガニゼーション」のクラスがお気に入り、これらのクラスを通じて社会や組織が掲げる主な原理がどのように個人に影響を及ぼすかということ学ぶことができたと言います。また、クラスを通じて社会の諸問題がいかに自分の人生と重複しているかということに気づくことができたと言います。

ハーンは二つのクラブにも参加しました。一つはチッタゴンを拠点とする AUW の外部組織 Rotarat にてリーダーシップ能力を育んでいます。二つ目のパブリックスピーキングクラブでは現地の学校に通う子どもに勉強を教えています。また、ハーンは図書館の貸し出しカウンターや IT 研究室でも働きました。ハーンは課外活動を通じてあらゆる人とコミュニケーションを図ることができたのが一番の喜びだと語ります。

この夏、ハーンはベトナムにて口述歴史のプロジェクトを完成しました。同プロジェクトはベトナムの歴史を個人経験という切り口から記録するものでした。現地の人々との繋がりを頼りに候補者を慎重に選び、数々のインタビューを行いました。自分が求めている情報にありつく難しさについて話しましたがこれがコミュニケーション能力をさらに磨くきっかけになったとも話します。

この秋、ハーンは哲学、政治、および政治学を専攻することを決めました。「文化遺産の課題」「人的介入」「微分積分 I」および「北京語 I」を受講します。彼女は勉学に励み、優秀な成績を残してさらなる知識を身に付けて新しい課外活動に参加することを心待ちにしています。